

病害虫の
見分け方
シリーズ

野菜に発生するコナジラミ類の識別と被害

熊本県農業研究センター 生産環境研究所 **樋** **口** **聡** **志**

はじめに

コナジラミ類は、ウンカ類やアブラムシ類等と同じカメムシ目の仲間で、我が国では25種が農作物を加害する害虫として報告されている（日本応用動物昆虫学会，2006）。そのうち、野菜栽培で問題となるコナジラミ類は、オンシツコナジラミとタバココナジラミの2種であり、タバココナジラミには生物学的特徴が異なる多くのバイオタイプが存在し（PERRING, 2001）、国内にも複数が生息している。これらコナジラミ2種やタバココナジラミのバイオタイプの違いにより、寄主適合性、媒介する病原ウイルスおよび有効薬剤等が異なるため、防除においては発生している種やバイオタイプを把握することが重要である。そこで本稿では、コナジラミ2種およびタバココナジラミのバイオタイプを識別する方法や被害等について紹介したい。

本文に入るに先立ち、本稿に対して有益なご助言をいただいた元熊本県農業研究センターの行徳 裕氏に厚く御礼申し上げます。

I 野菜に発生するコナジラミ類

オンシツコナジラミとタバココナジラミは、世界中に広く分布する農業害虫である。これら2種は、葉裏の毛茸が少なく葉面が滑らかな植物ではサークル状に産卵し（図-1）、ふ化すると4齢幼虫まで発育する。その後、4齢幼虫の背面に裂け目ができて成虫が羽化する（図-2, 3）。成虫は翅が白く、体色が淡黄色である。かつて、4齢幼虫の後期を「蛹」と呼ぶこともあったが、蛹の発育段階を持たない不完全変態昆虫である。特徴として、ふ化した1齢幼虫はしばらくの間周囲を歩行するが、2齢になると脚を持たない固着生活となる。どちらも基本的に寄主植物の葉裏で生活しており、成虫および幼虫ともに口針を使って植物の汁液から栄養を摂取して甘露を排泄する。また、産雄単為生殖であり、未受精卵は雄となる。



図-1 サークル状に産卵されたタバココナジラミ卵

Identification and Damage of Whiteflies on Vegetables. By Satoshi HIGUCHI
(キーワード: コナジラミ, バイオタイプ, 異常症, TYLCV, CCYV)